



株主通信

第215期 2022年4月1日~2023年3月31日

[証券コード:3106]

CONTENTS

株主の皆様へ	1
当社グループの事業概況	3
トピックス	5
サステナビリティ	7
財務情報	8
株式情報・会社情報	9
株主メモ	巻末

株主の皆様へ



平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、当社グループの第215期連結会計年度（2022年4月1日から2023年3月31日まで）の概況につきまして、ご報告申し上げます。

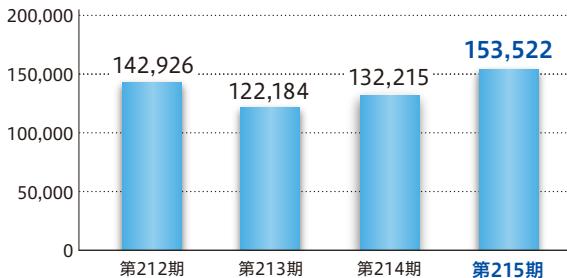
当連結会計年度におけるわが国経済は、ウイズコロナ下での行動制限の緩和などにより、景気の持ち直しが期待されましたが、ロシア・ウクライナ情勢の長期化などの地政学的リスクを契機とした資源価格の高騰や円安の進行によるコストアップ、一部の半導体や電子部品などの供給不足などの影響により、本格的な景気回復には至りませんでした。

このような環境下において当社グループは、2022年4月よりスタートした中期経営計画「Progress'24」の基本方針である「高収益事業の拡大と持続可能な成長に向けた基盤事業の強化」のもと、半導体製造関連分野に向けて、高機能樹脂加工品などの成長・注力事業の拡大を図るとともに、基盤事業である繊維事業では、カジュアル需要の取り込みや独

連結業績ハイライト

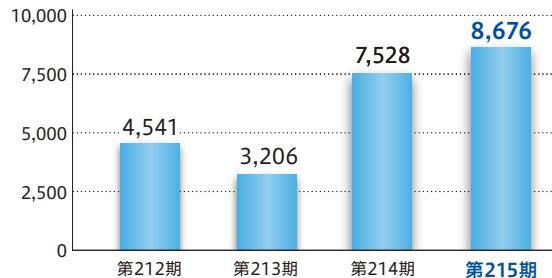
売上高

(百万円)



営業利益

(百万円)



自技術による高機能・高付加価値素材の拡販などにより、業績回復に努めました。また、原燃料などの価格高騰に対しては、販売価格への転嫁とコストダウンに取り組み、収益改善を図りました。

この結果、売上高は1,535億円（前年同期比16.1%増）、営業利益は86億7千万円（同15.2%増）、経常利益は100億2千万円（同14.1%増）となりましたが、特別損失に減損損失を計上したことなどにより、親会社株主に帰属する当期純利益は55億1千万円（同1.5%減）となりました。

今後の経済情勢につきましては、新型コロナウイルス感染症による社会経済活動への制約が解消されたものの、長引くロシア・ウクライナ情勢などの地政学的リスクを背景に、資源価格相場やサプライチェーンは依然として不安定な状況が続くなか、インフレ進行に対する各国の金融引き締めの影響により、景気後退が懸念されます。

このような経営環境のなかで、原燃料価格の変

動リスクへの対応が大きな課題であり、引き続き、価格転嫁やコストダウンを進めてまいります。

また、当社グループでは、「イノベーションと高収益を生み出す強い企業グループ」を目指す「長期ビジョン2030」のセカンドステージにあたる中期経営計画「Progress'24」が進行中であり、高収益事業体制の確立に向けて、成長市場における注力事業へ経営資源を集中するとともに、基盤事業の収益力強化に取り組んでおります。さらに、引き続きグループガバナンスを強化するとともに、社会課題に取り組むなどサステナビリティを意識した経営を進めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2023年6月

取締役社長 藤田 晴哉

経常利益

(百万円)



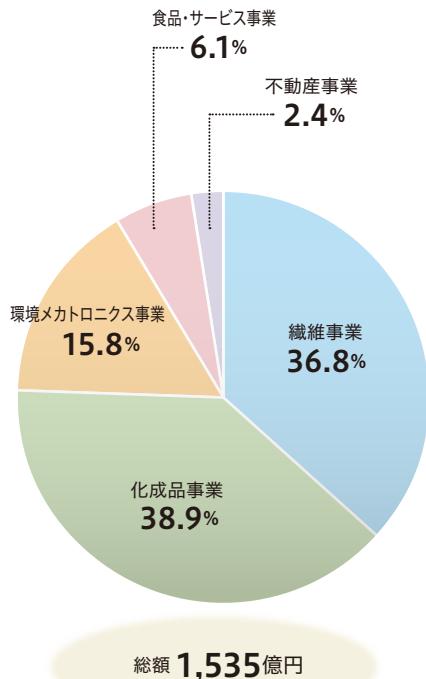
親会社株主に帰属する当期純利益

(百万円)



当社グループの事業概況

事業セグメント別売上高構成比率



繊維事業

糸は、高付加価値製品が順調に推移し、国内および海外子会社とともに、増収となりました。

テキスタイルは、カジュアル向け素材の受注が海外子会社を中心に回復し、また、ユニフォーム向け素材も順調に推移し、増収となりました。

繊維製品は、国内カジュアル衣料の受注が増加したことにより、増収となりました。

また、これまで進めてきた収益改善策も着実に進捗しました。

この結果、売上高は565億円(前年同期比26.5%増)、営業利益は3億円(前年同期は営業損失1億7千万円)となり、5期ぶりに黒字化しました。

繊維事業

- 糸、テキスタイル、繊維製品(縫製品等)の製造・販売



化成成品事業

軟質ウレタンは、自動車内装材向けでは、国内および中国子会社で半導体不足や中国のゼロコロナ政策によるサプライチェーンの混乱の影響はあったものの回復傾向で推移し、また、ブラジル子会社の受注が順調で、全体では増収となりました。

機能樹脂製品は、半導体製造装置向け高機能樹脂加工品が好調に推移し、また、自動車向け機能フィルムの受注が回復し、増収となりました。

住宅用建材は、景観材および断熱材が順調で、増収となりました。

機能資材は、補強用繊維資材の受注が回復し、増収となりました。

この結果、売上高は597億円(前年同期比15.5%増)、営業利益は37億1千万円(同24.6%増)となりました。

化成成品事業

- 軟質ウレタン、機能樹脂製品(機能フィルム、高機能樹脂加工品)、住宅用建材(合成木材、無機建材、硬質ウレタン)、その他(不織布、機能資材)の製造・加工・販売



環境メカトロニクス事業

エレクトロニクスは、飲料容器の検査装置や基板検査装置の販売は低調でしたが、半導体業界向け液体成分濃度計の販売が順調に推移し、子会社でも半導体洗浄装置の大型案件があり、増収となりました。

エンジニアリングは、排ガス処理設備およびプラント関係の大型案件が少なく、減収となりました。

バイオメディカルは、攪拌脱泡装置の海外向け販売などが順調で増収となりました。また、工作機械は、中国向けの販売は低調に推移しましたが、国内および米国向けの販売が順調でした。

この結果、売上高は242億円(前年同期比2.9%増)、営業利益は28億3千万円(同2.1%増)となりました。

環境メカトロニクス事業

- エレクトロニクス(色彩・生産管理等に関する情報システム機器、検査・計測システム)の製造・販売・保守
- エンジニアリング(環境・エネルギー関連の各種プラント等の設計・製作・施工・販売、バイオマス発電事業)
- その他(バイオ関連製品、工作機械等)の製造・販売



食品・サービス事業

食品は、内食需要の定着により、成型スープの販売が好調で、増収となりました。

ホテル関連は、行動制限緩和や観光事業支援策の効果により、増収となりました。

この結果、売上高は92億円(前年同期比9.8%増)、営業利益は4億6千万円(同71.0%増)となりました。

食品・サービス事業

- フリーズドライ食品の製造・販売
- ホテル、自動車教習所等の経営ほか



不動産事業

不動産賃貸は、一部賃貸条件の変更などにより、売上高は37億円(前年同期比1.9%減)となり、修繕費の増加などにより営業利益は24億3千万円(同11.4%減)となりました。

不動産事業

- 不動産の賃貸

コーポレートサイトのご案内

コーポレートサイトでは、会社案内や、ニュースリリースのほか、IR情報をお届けするため、「株主・投資家情報」を開設しています。

「株主・投資家情報」では、当社グループの中期経営計画、IR資料、株式情報、財務情報など、株主・投資家の皆様のお役に立つ情報を提供しています。

「株主・投資家情報」のページ <https://www.kurabo.co.jp/finance/> ▶▶▶



トピックス

繊維
事業部

防災加工“PROBAN”の ライセンス契約を締結

繊維事業部は、昨年8月にベルギーの大手化学薬品メーカーのソルベイ社と“PROBAN(プロバン)”の加工・販売に関するライセンス契約を締結しました。

“PROBAN”は綿100%素材に防災性を施す加工技術で、耐スパッタ(火の粉)性能が高く、主に鉄鋼、金属メーカー等を中心に、溶接など火の粉が飛ぶような作業者向けのユニフォームに使用されています。

一方、すでに展開している綿モダクリル混の防災素材“BREVANO(ブレバノ)”は、静電気帯電防止性能もあり、主にガスや電力会社などの火や静電気による爆発の危険

性のある作業現場を中心に採用が進んでいます。今回“PROBAN”が加わったことで、防災素材のラインアップが充実しました。

今後もユニフォーム分野では、新たな商品やサービスを開発することで、働く人へ安全と快適を提供してまいります。

PROBAN

溶接・鉄鋼作業現場など(火の粉などのリスクがある)



BREVANO

火炎暴露のリスクや火に近い一般作業現場



“BREVANO”の概要紹介ページ

<https://kurabo-uniform.com/case/02/>



化成品
事業部

機能フィルムの生産能力を 増強

化成品事業部は、成長・注力事業に位置づける機能フィルム事業の生産能力増強に向け、三重工場(三重県津市)に主に太陽電池向けフィルムを生産する新ラインを本年5月に設置し、7月より本格生産を開始します。

三重工場では以前より太陽電池向けフィルムを生産しており、再生可能エネルギーの活用が加速していることから、需要増加に対応するために新ラインを導入いたします。新ラインでは、需要が高まりつつある太陽電池パネルの大型化にも対応できるよう、幅広フィルムの生産が可能です。

今後も機能フィルムや半導体製造関連などの成長・注力事業の業容拡大と、太陽電池パネルをはじめとするカーボンニュートラルの達成に寄与する製品群の開発・生産に注力してまいります。



三重工場

機能フィルムの概要紹介ページ

https://www.kurabo.co.jp/chem/functional_film.html



環境
メカトロニクス
事業部

[エレクトロニクス分野]

“KURASENSE”がロボット大賞 『日本機械工業連合会会長賞』を受賞

環境メカトロニクス事業部と技術研究所が開発・販売しているロボット用高速3Dビジョンセンサー“KURASENSE（クラセンス）”が、昨年10月に「第10回ロボット大賞 日本機械工業連合会会長賞」を受賞しました。

ロボット大賞は、ロボット技術の開発、事業化の促進と、社会に役立つロボットの認知向上を目的として、将来の市場創出への貢献度や期待度が高いと考えられる優れたロボットや関連技術を対象として表彰するものです。今回の“KURASENSE”の受賞では、ケーブルや電線など線状物の認識に特化した高いセンシング技術と、ロボットシステム関連の新技术の普及に貢献している点が評価されました。

主にケーブルやワイヤーハーネスを扱う工場の自動化に貢献している“KURASENSE”。今回の表彰を機に、今後さらなる独自技術の開発と拡販を続けてまいります。



“KURASENSE”

“KURASENSE”の技術特長

① 全体を見る



② つかむために見る



③ さしこむ
ために見る



“KURASENSE”の概要紹介ページ

<https://www.kurabo.co.jp/el/kurasense/index.html>



関係会社
エコー技研(株)

シリコンウエハ洗浄装置の 生産能力を増強

エコー技研(株)は、世界的な半導体需要の増加により同社が開発・販売する半導体の材料となるシリコンウエハ洗浄装置の受注増加が見込まれることから、生産能力を拡大するための拡張工事を本年2月に完了しました。今回の工事では、クリーンルームのスペース拡張などを図り、また装置に使用する外付けユニットや搬送ロボットの組み立て室を新たに設ける等生産能力を約60%高め、4月から本格稼働を開始しました。

主力製品は、シリコンウエハの最終洗浄を行う装置で、

一度に洗浄できる枚数が他社装置に比べ約2倍と処理能力が高いことに加え、優れた洗浄能力を有するため、シリコンウエハメーカーから高い評価を得ています。日本をはじめ韓国や中国などのメーカーからの引き合いも多く、



シリコンウエハ洗浄装置の内部

今回の生産能力の増強によりさらなる受注拡大に努めてまいります。

エコー技研(株)の概要紹介ページ

<https://www.echo-giken.co.jp/>





企業広告「面白いこと やってやろう。」シリーズが日経産業新聞広告賞の最優秀賞を受賞

クラボウの認知度向上を目指し展開している企業広告「面白いこと やってやろう。」シリーズが、昨年12月に第49回日経産業新聞広告賞の最優秀賞を受賞しました。今回受賞した企業広告は、2018年、創立130周年の際に社内外に発信した社長メッセージ「面白いこと やってやろう。」をコンセプトに当社グループの技術や製品、その志を紹介するシリーズ広告です。受賞にあたっては、



企業広告

当社グループ従業員が取り組む社会課題解決に向けたビジネスやその成果を、親しみのある漫画を通じて訴求しており、専門的になりがちな産業界の課題や、当社独自の技術、ソリューションにも関心を持っていただける広告になっていることが評価されました。

また、これまでに広告などに登場した社員が語る動画「面白いこと やってやろう。座談会動画シリーズ」もウェブサイトにて公開中ですので是非ご覧ください。



紹介サイト (SEASON5 EP3)

企業広告「面白いこと やってやろう。」の紹介サイト
<https://www.kurabo.co.jp/omoshiroiokoto/>



PRIDE 指標の最高位「ゴールド」を2年連続で受賞

クラボウは、昨年11月、LGBTQ+などのセクシュアル・マイノリティ(以下LGBTQ+)に関する企業の取組みの指標「PRIDE 指標 2022」において最高位である「ゴールド」を受賞しました。



ゴールド認定ロゴマーク

PRIDE 指標の受賞は3回目で、最高位の「ゴールド」を受賞したのは2年連続となります。今回の受賞にあたっては、LGBTQ+に関する取組みを推進するため、外部イベント「レインボーフェスタ」などへの協賛・参加や、支援者「アライ」を増やすためのアライシール刷新・配布、社員研修の頻度増加などの取組みが評価されました。

社員一人ひとりが本来持つ力を最大限発揮できる職場環境にするため、今後も諸施策に取り組んでまいります。



レインボーフェスタのシーン

クラボウのダイバーシティ&インクルージョンの紹介サイト
<https://www.kurabo.co.jp/sustainability/society/diversity.html>



財務情報

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)	科目	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
資産の部			負債の部		
流動資産	78,397	84,771	流動負債	42,761	46,030
固定資産	88,888	89,315	固定負債	27,109	25,149
有形固定資産	49,686	47,176	負債合計	69,870	71,179
無形固定資産	1,378	1,447	純資産の部		
投資その他の資産	37,823	40,690	株主資本	94,461	95,910
資産合計	167,285	174,086	その他の包括利益累計額	1,555	5,424
			非支配株主持分	1,398	1,572
			純資産合計	97,415	102,907
			負債純資産合計	167,285	174,086

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (2021年4月1日~ 2022年3月31日)	当連結会計年度 (2022年4月1日~ 2023年3月31日)
売上高	132,215	153,522
売上原価	104,863	124,077
売上総利益	27,351	29,445
販売費及び一般管理費	19,823	20,768
営業利益	7,528	8,676
営業外収益	2,088	2,259
営業外費用	833	910
経常利益	8,783	10,024
特別利益	526	627
特別損失	892	3,034
税金等調整前当期純利益	8,418	7,618
法人税等	2,912	2,047
当期純利益	5,505	5,571
非支配株主に帰属する当期純利益 又は非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△96	54
親会社株主に帰属する当期純利益	5,602	5,516

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (2021年4月1日~ 2022年3月31日)	当連結会計年度 (2022年4月1日~ 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,246	2,516
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,341	△2,969
財務活動によるキャッシュ・フロー	△14,065	△3,581
現金及び現金同等物に係る換算差額	174	321
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△7,985	△3,713
現金及び現金同等物の期首残高	22,059	14,073
現金及び現金同等物の期末残高	14,073	10,360

株式情報・会社情報

当社の株式に関する事項 (2023年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 97,701千株
- 発行済株式の総数 20,000千株
- 株主数 14,030名
- 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,837	9.71
日本生命保険相互会社	920	4.86
株式会社三井住友銀行	782	4.13
株式会社みずほ銀行	782	4.13
株式会社中国銀行	726	3.84
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	676	3.57
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	361	1.91
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE U.S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS SEC LENDING	332	1.75
クラボウ共栄会	327	1.73
三井住友信託銀行株式会社	317	1.67

(注) ①当社は、自己株式を1,083千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
②持株比率は自己株式を控除して計算しております。

当社グループの概要 (2023年3月31日現在)

当社

■創立 1888年3月9日 ■本店 岡山県倉敷市本町7番1号

■主要な事業所

区分	名称	所在地	
営業所 および 研究所	大阪本社	大阪市中央区	
	東京支社	東京都港区	
	技術研究所	大阪府寝屋川市	
工場	繊維	安城工場	愛知県安城市
		徳島工場	徳島県阿南市
	化成品	寝屋川工場	大阪府寝屋川市
		裾野工場	静岡県裾野市
		群馬工場	群馬県伊勢崎市
		鴨方工場	岡山県浅口市
		三重工場	三重県津市
熊本事業所	熊本県菊池市		

(注) 東京支社は、2022年9月26日に東京都中央区から移転いたしました。

当社グループの従業員の状況

従業員数(前連結会計年度末比増減)(人) 4,189(25)

(注) 従業員数は就業人員であり、上記のほか、臨時社員・パートタイマー957人がおります。

当社の重要な子会社の状況

区分	会社名
国内	倉敷機械(株)
	日本ジフィー食品(株)
	(株)クラボウインターナショナル
	倉敷繊維加工(株)
	東名化成(株)
	シーダム(株)
	クラボウケミカルワークス(株)
海外	(株)倉敷アイビースクエア
	クラシキド・ブラジル・テキスタイル(有)
	タイ・クラボウ(株)
	(株)クラボウ・マングアル・テキスタイル
	広州倉敷化工製品有限公司
広州倉福塑料有限公司	

(注) 上記記載の重要な子会社13社を含め、当連結会計年度の連結子会社は25社、持分法適用会社は2社であります。

当社の取締役 (2023年6月29日現在)

代表取締役社長	藤田晴哉	取締役	藤井裕詞
代表取締役	北島篤	取締役	岡田治
取締役・専務執行役員	馬場紀生	社外取締役	茂木鉄平
代表取締役	川野憲志	社外取締役	新川大祐
取締役・専務執行役員	西垣伸二	社外取締役	西村元秀
取締役	稲岡進	社外取締役	谷澤実佐子

(注) 社外取締役(監査等委員)茂木鉄平、新川大祐、西村元秀および谷澤実佐子の4氏は、いずれも当社が定める「社外取締役の独立性に関する基準」の要件を満たしており、また東京証券取引所有価証券上場規程第436条の2に定める独立役員であります。

当社の執行役員 (2023年6月29日現在)

常務執行役員	八木克真	執行役員	森重潔
常務執行役員	西澤厚彦	執行役員	黒澤昭夫
常務執行役員	相徳朗人	執行役員	丸毛浩嗣
常務執行役員	中川真豪	執行役員	磯部将典
執行役員	平田政弘	執行役員	森松禎文
執行役員	松井一雄	執行役員	小松亮

大原孫三郎の 志を今に伝える 記念館

2023年3月に一部リニューアルしました



G7倉敷
労働雇用大臣会合で
見学いただきました!

倉紡記念館



<https://www.kurabo.co.jp/museum/>

岡山県倉敷市本町7番1号 (JR倉敷駅より徒歩15分・倉敷アイビースクエア内)

TEL (086) 422-0011

●公開時間 AM.10:00 ~ PM.4:00 ●入館料 個人:一般300円/学生250円

クラボウ第2代社長
大原 孫三郎

株主の皆様へ このページを倉紡記念館の受付で提示していただくと、無料で入館いただけます。
<有効期限> 2024年3月31日まで

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日
 - (1)定時株主総会・期末配当金 毎年3月31日
 - (2)中間配当金 毎年9月30日
- 公告の方法
電子公告の方法により行います。
公告掲載URL <https://www.kurabo.co.jp>
※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777 (通話料無料)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。